

## 【募集中のセミナー・講座】

<http://trigger110.net/archives/category/seminar>

▽痛みで困っておられる方の為のセミナー（無料）

5月19日（日）「トリガーポイント腰痛セミナー」福岡県新宮町

5月25日（土）「痛みが楽になるセミナー」新潟県新潟市

▽初心者対象セミナー・講座

5月26日（日）「トリガーポイント治療 ベーシックセミナー」新潟県新潟市

6月1日（土）「トリガーポイント治療 ベーシックセミナー」兵庫県神戸市

6月23日（日）～「トリガーポイント治療 ベーシック講座」熊本県菊陽町

6月30日～「メディカル・ヨガ指導者養成講座」熊本県熊本市

7月21日（日）「トリガーポイント治療 ベーシック講座」熊本県菊陽町

▽経験者対象セミナー・講座

6月2日「トリガーポイント治療アドバンスセミナー」兵庫県神戸市（定員となりました）

6月26日（水）～「トリガーポイント治療 アドバンス講座」福岡県飯塚市

7月20日（土）「トリガーポイント治療 アドバンスセミナー」愛知県名古屋市

## 【開催中の講座】

6月9日（日）「TPデンタルセラピスト勉強会」福岡県久留米市

3月～10月「トリガーポイント治療 後継者育成講座」神奈川県川崎市

4月～7月「トリガーポイント治療 ベーシック講座」神奈川県川崎市

## 【開催予定のセミナー・講座】

9月～12月「トリガーポイント治療 ベーシック講座」神奈川県川崎市

9月～3月「トリガーポイント治療 後継者育成講座」愛知県名古屋市

## 【書籍紹介「余命3ヶ月のウソ（近藤誠著）」】

□ ガンが恐ろしいのではない「ガンの治療」が恐ろしい

余命3ヶ月の宣告を受けたという声をよく聴きます。私は慶応大学病院の外来で23年以上にわたり「ガンを治療しない」患者さんを診てきました。全部で150人以上に及びます。しかしその中に、3ヶ月どころか1年以内に逝ったというケースさえ一つもありません。

スキルス胃がんは悪性度が高く進行が速いとされ、見つかると同時に「余命3ヶ月」と言われる患者さんも多いと聞きます。しかし「治療しない」と決めた患者さんには、診断から数ヶ月でなくなった方は皆無。逆にスキルス胃がんを抱えてふつうに仕事や好きな事を続けて、3年から9年も生きた方は何人もいます。

治療をしなければ、ガンは最後まで頭がはっきりしていて、対処法を間違えなければ、身体もわりに動きます。全く痛まないガンも多い。痛みが出てもコントロールできます。

元気な人が、あっという間に変わり果てた姿で逝くのは、ガンの治療のせいです。

思い出して下さい。スキルス胃がんの大手術から3ヶ月で逝ったニュースキャスターの逸見政孝さん。肺ガンの抗ガン剤治療を始めて2ヶ月半で逝った、芸能リポーターの梨元勝さん。

食道ガンの手術から4ヶ月で逝った、歌舞伎役者の中村勘三郎さん。

今まで活躍していた人が、検診や人間ドックでガンと診断され、「治療に専念します」と言ってすぐに逝ってしまう。有名無名を問わず「またか」というほど多いですね。

医者がすすめる「ガンの治療」で余命3ヶ月にさせられた悲劇です。

ガンが恐ろしいのではない、「ガンの治療」が恐ろしいのです。

## □ 免疫ではがんを防げない、治せない

「免疫力を高めてがんを防ごう」「人間の身体には1日5000個のガン細胞が生まれているが、免疫細胞のNK細胞が殺してくれる・・・」免疫力を上げればがんをなんとか出来ると錯覚させる、見てきたようなウソが広がっています。大学病院で行われている「免疫細胞療法」も同じです。

欧米の医学界の常識は「ガンに対して免疫力を強化しても無意味。効果なし」。免疫と名の付く療法で患者を集める医者は詐欺師扱いされます。なぜなら免疫細胞は、外からの異物を敵と認識して叩く。ところがガンは自己細胞が変異したもので、人間の免疫システムが、ガン細胞を敵とみなさないからこそ、ガンは発生するのです。あとから免疫を強化する「免疫療法」は原理的な欠陥があります。ガンが直径1cmに育ってから発見されるのは、NK細胞が、ガン細胞を敵として見分けられなかった為で、免疫系でガンが排除できない証拠です。実際、「胃がん手術をしなかった患者の生存率」のデータで、抗ガン剤を使った人、免疫療法を行った人の5年生存率はどちらも20%以下。治療しなかった人の方がずっと長生きで、5年生存率は50%という数字が出ています。

免疫細胞療法の治療費は高額で、「ガンを押さえ込みたいなら一生続ける必要がある」と、毎月数十万円を請求されたりします。詐欺にのせられないで下さい。

## □ 積極治療から、ガン放置療法へ

私も研修医時代は、ガンは積極的に治療するのが当たり前だと思っていました。けれども、患者が毒性で苦しむ姿を目にし、治療によってあきらかに命を縮めてしまった経験から、抗ガン剤治療に疑問を抱き、改めて臨床論文を分析し、ガンの原理まで遡って治療の理論を考えました。すると、手術、放射線、ガンの早期発見などについても、さまざまな疑問がわき起こりました。そこで「どうしたら患者さんは一番苦しまずに長生きできるだろうか」という視点で、無理や矛盾のない診療方法を考え抜いて「ガン放置療法」を確立しました。ガンの最善の治療法は「無治療」。治療はガンによる痛みや苦しみが出てきたときだけ、生活の質を維持するためにやれば十分です。これは世界でも最も新しい治療法であり、ガンへの最善の対処法と確信しています。

## □ ガンの早期発見・早期治療は無意味

ガンの早期発見・早期治療はいくらやっても無意味です。その証拠に、1960年代から人口に占める総ガン死亡率は下がっていません。今の医学で発見できる「早期ガン」は30回も細胞分裂して直径1cm前後に育った「シニア」の段階です。分子生物学の研究が進んで「ガンは当初から転移する能力がある。ガンが大きくなってから転移するという説は間違い」であることが次第にはっきりしてきています。

本物のガンは初期に転移するので、手術も抗ガン剤も間に合いません。一方、早期ガンの大部分を占める「無症状のガン」はほぼ命を奪わない「がんもどき」です。

最新鋭機を使えばガンはいくらでも見つかりますが、大部分は「がんもどき」。

本物のガンなら幹細胞が生まれた瞬間に「転移して最後は宿主（患者）の命を奪う」性質を備えていて、どんなに最新機器で「早期発見」しても、とっくに転移した後です。

見つかったガンを急いで切除したり、抗ガン剤で叩いたりするメリットは何もありません。慌てないで、最善の策を練って下さい。

## 【胸鎖乳突筋】

胸鎖乳突筋は首の横にある筋肉で、頭部を後に引く、左右に回旋する時などに働きますが、追突事故や転倒などの急な衝撃に強く反応する筋です。

この筋にトリガーポイントが生じると、頭痛、めまい、耳鳴りなど多彩な症状を呈しますので、トリガーポイント・マニュアルを著したトラベル博士らはこの筋に対して「驚嘆すべき複雑さ」と称しています。

耳の後ろの後頭部から胸骨に付く「胸骨部」と鎖骨に付く「鎖骨部」の二つの筋があります。

## 1, 症候・徴候

- ・血管性の頭痛, 顔面神経痛の誤診を受ける事がある。

### ①胸骨部⇒頬, 側頭部, 眼窩

- ・胸骨部最下部のTPが異常に活性化されると胸骨筋と合体して「空咳」を作る。
- ・中間部のTPは眼窩内に痛みを放散し, 外耳道に放散することがある。
- ・ 〃 嚥下時に喉頭や舌背部に痛みを放散する事もある。
- ・自律神経付随現象として過度の涙の分泌, 充血, 眼瞼下垂, 鼻炎, 視野の乱れなど。
- ・耳鳴りを伴わない難聴。

### ②鎖骨部⇒前頭部の痛み,

- ・体位性のめまい, 重量感覚の乱れ
- ・就寝時に寝返りを打つときにめまいを経験することが多い。
- ・船酔い, 車酔いを起こしやすくなる。
- ・胃の不調, 吐き気, 食欲不振感をもたらす。
- ・聴力の減退
- ・TPがある方で持った物の重みを軽く感じる。(重量感覚の乱れ)
- ・顔面の痛みは顔面の神経痛, 緊張性頭痛の誤診を受ける。

## 2, TPの活性化

- ・就寝時に長時間胸鎖乳突筋を短縮位にする。
- ・天井へのペンキ塗りなど上を向く作業。
- ・双眼鏡でのバードウォッチング
- ・短下肢, 半側小骨盤
- ・片側の耳が聞こえにくい場合の聞き取り動作。
- ・異常な呼吸, 慢性的な咳(肺気腫, 喘息など) ⇒呼吸筋に過負荷
- ・クロール時の呼吸

## 3, 改善処置

- ・立位, 動作時の頭の位置に注意する。(顎が上がらない様にする)
- ・近視の矯正。頭部を前方に傾ける。
- ・短下肢, 半側小骨盤の調整
- ・首の側屈運動

